

## 平成28年度第4回小牧市地域公共交通会議議事録

1 開催日時 平成29年1月11日(水)午後2時00分から

2 開催場所 小牧市役所東庁舎大会議室

3 出席者

(1) 小牧市地域公共交通会議委員

名古屋鉄道(株) 西部支配人

水野 泰

(大野正人代理)

名鉄バス(株) 取締役

近藤 博之

あおい交通(株) 代表取締役

松浦 秀則

小牧タクシー(株) 代表取締役

兼松 雅春

公益社団法人愛知県バス協会 専務理事

古田 寛

愛知県タクシー協会 副会長

河村 富貴

愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事

伊藤 匠二

小牧市区長会 連合会長

公共交通利用促進協議会 会長

小柳 松夫

小牧市区長会 連合副会長

横井 徳明

小牧市老人クラブ連合会 副会長

平手 満治

生涯学習ボランティア・こまき 代表

森 勝昭

中部大学工学部都市建設工学科 教授

磯部 友彦

中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官

杉本 忠久

愛知県 振興部 交通対策課主幹

桑原 良隆

(山口彩代理)

愛知県小牧警察署 交通課長

船坂 透

犬山市 市民部 地域安全課長

田中 豊明

豊山町 産業建設部 地域振興課長

堀尾 政美

小牧市 健康福祉部長

舟橋 毅

小牧市 都市建設部長(建設担当)

平岡 健一

小牧市 都市建設部長(都市整備担当)

渡辺 学

(2) 事務局

小牧市 都市建設部次長(都市整備担当)

牧野 治

小牧市 都市建設部 都市政策課主幹

河村 昌二

小牧市 都市建設部 都市政策課交通政策係長

松浦 善行

小牧市 都市建設部 都市政策課交通政策係主査

金子 清一郎

小牧市 都市建設部 都市政策課交通政策係主事補	上 條 稔 貴
小牧市 都市建設部 都市政策課計画係長	大 澤 正 人
株式会社国際開発コンサルタンツ名古屋支店	小 林 良 治
株式会社国際開発コンサルタンツ名古屋支店	加 藤 洋 司
株式会社国際開発コンサルタンツ名古屋支店	渡 辺 一 真
株式会社中部速記センター	原 口 千 秋

(3) 傍聴者

2名

4 議題

(1) 小牧市地域公共交通網形成計画策定状況について

- ・各種アンケート等の実施結果について
- ・課題整理について
- ・基本的な方針（素案）について

(2) こまき巡回バスのダイヤ改正について

(3) 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について

5 報告

(1) 名鉄バス間内・岩倉線に対する補助の継続について

6 会議資料

資料 1-1	小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る各種アンケート等の実施結果	概要
資料 1-2	小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る各種アンケート等の実施結果	
資料 2	小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る課題整理について	
資料 3	持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針（素案）	
資料 4-1	こまき巡回バスのダイヤ改正に関する概要	
資料 4-2	こまき巡回バス再編後時刻表	
資料 5	平成 28 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）	
資料 6	名鉄バス間内・岩倉線に対する補助の継続について	
資料 7	乗り換え案内サービスで経路や時刻が検索できます！	
参考資料	小牧市地域公共交通会議委員名簿	

7 議事内容

【事務局】（金子主査）

定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。ただいまから平成 28 年度第 4 回小牧市地域公共交通会議を開催させていただきます。

本日、議事録を速やかに作成するため速記を入れさせていただいておりまして、お手元の机の近

くにマイク等が配置しておりますが、ご了承くださいますようお願いいたします。

会議の開催に先立ち、事務局を代表しまして都市建設部都市整備担当次長の牧野よりご挨拶を申し上げます。

**【事務局】（牧野次長）**

改めまして、皆さん、こんにちは。

本日は、大変お忙しい折、第4回の地域公共交通会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、現在、今年度から2箇年をかけて、地域にとって望ましい公共交通網の姿を明らかにするマスタープランとしての「小牧市地域公共交通網形成計画」の策定を進めているところでございます。

本日は、この計画の策定状況として、昨年を実施しました各種調査の結果と、それらから導かれております課題の整理、今年度末に策定を予定しております基本方針の素案などについてご協議をいただきたいと思っております。また、平成29年4月に実施するこまき巡回バスのダイヤ改正や、地域公共交通確保維持改善事業に対する自己評価についてもご協議いただきたいと考えております。

本日の会議はご協議いただく内容が多岐にわたっておりますが、この計画の策定を行うに当たり大変重要な内容となっておりますので、委員の皆様方にはよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが挨拶とかえさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

**【事務局】（金子主査）**

ありがとうございました。

なお、本日の出席委員は20名であります。従いまして、委員総数22名の過半数に達しておりますので、小牧市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定により本会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、まず本日の会議資料の確認をさせていただきます。

まず、本日の次第でございます。続きまして、資料1-1としまして、A3横ですが「小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る各種アンケート等の実施結果概要」でございます。資料1-2として「小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る各種アンケート等の実施結果」でございます。資料2としまして「小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る課題整理について」でございます。資料3としまして「持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針（素案）」でございます。資料4-1としまして「こまき巡回バスのダイヤ改正に関する概要」でございます。資料4-2としまして「こまき巡回バス再編後時刻表」でございます。資料5としまして「平成28年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）」でございます。資料6として「名鉄バス間内・岩倉線に対する補助の継続について」でございます。資料7として「乗り換え案内サービスで経路や時刻が検索できます！」でございます。最後に、参考資料としまして「小牧市地域公共交通会議委員名簿」でございます。

これらの資料につきまして事前に委員の皆様方にお渡しさせていただいておりますが、本日資料をお持ちでない方や資料の不足、乱丁等ございましたら、事務局までお知らせください。

よろしいでしょうか。

ご確認ありがとうございます。

続きまして、前回の会議以降において委員の交代がございましたので、お名前を読み上げ、ご紹介にかえさせていただきます。

愛知県小牧警察署交通課長であります船坂 透様でございます。委員交代後の名簿につきましては、参考資料「小牧市地域公共交通会議委員名簿」をご確認ください。

また、本日は、名古屋鉄道株式会社の水野委員にかわり小牧駅長であります大野様に、愛知県振興部交通対策課の桑原委員にかわり同課主事であります山口様にそれぞれご出席いただいておりますので、ご紹介させていただきます。

それでは、会議を始めるにあたりまして、磯部会長よりご挨拶をいただきます。磯部会長、よろしく願いいたします。

### 【磯部会長】

皆様、こんにちは。というか、明けましておめでとうでございますかもしれませんけど。

新しい年になりまして新しいこともいっぱいあるんですけれども、去年の反省もやっぱり多少しておかないかなというのがございます。

実はご存じのとおり愛知県が交通事故死ということでいけばワーストを続けてしまったという話で、いろいろとニュースなんか、いろんな報道がありますけれども、高齢者が多いよという話で、じゃあなぜ高齢者が事故を起こすかといったら、運転適性がちょっとないんだけど車を使わざるを得ないという状況があるんじゃないかと。これだけじゃないと思いますけど、あるんじゃないかと。じゃあ、車を持たなくて済むためにはどうしたらいいかといったら、地域公共交通とかタクシーとかを使えたらいいなという話題にもなってきております。

となりますと、そういった交通事故の話と地域公共交通は全く無関係ではなくて、むしろいかにそれを、うまくシステムをつくって皆さんに使っていただくかという話ですから、そういったことももちろんやっていかないとということも大切かなと思っておりますので、ワーストを脱したいというのがありますので、何とかこの地域公共交通会議でもそれがお助けできたらいいかなと思っております。

もう一つ話題としましてはやっぱり、去年あったのは、軽井沢のスキーバスの話で、年末には物流業者さんのドライバーがちょっとキレちゃったという話があったりして、ドライバーがどうしても不足しているという話題がありました。

それなら即無人運転という話も出てきてはいますけれども、東京オリンピックに向けて実験的にやりたいなというのがあるわけですが、本当にそれが正しい答えなのかどうかわかりませんが、何か新しい仕組みですね。新しい装置とか仕組みとかをやっぱり考えていかなきゃいかんのだろうなと。ただ単に今までのとおり続けていくだけじゃなくて、何か新しいものを積極的に入れるという。それが一つは無人の話かもしれませんが、一つはまた新しい機械とかいう話かもしれないし、新しい運賃体系とか、いろんな何か新しさが必要になってきているんじゃないかなと思いますので、またそういうのも皆さんと一緒に考えていきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

### 【事務局】（金子主査）

磯部会長、ありがとうございました。

続きまして、次第の2. 議題であります、今後の議事の進行につきましては磯部会長にお願いしたいと思います。磯部会長、よろしく願いいたします。

**【磯部会長】**

初めに、この会議は公開が原則となっております。本日は2名の方から会議傍聴の申し出がございました。承認いたしましたので、ご報告申し上げます。

それでは、議事を進行してまいります。

まず、議題「(1) 小牧市地域公共交通網形成計画策定状況について ・各種アンケート等の実施結果について ・課題整理について ・基本的な方針(素案)について」でございます。

現在策定を進めております小牧市地域公共交通網形成計画のうち、今回は速報版としてお示しいただきました各種アンケート等の実施結果のうち、前回の会議以降に集計・分析を行った結果についてを「各種アンケート等の実施結果について」にまとめて、これらの調査等に基づく課題について、前回の会議において議論した内容を踏まえて修正したものを「課題整理について」、課題に基づく今後の方針を「基本的な方針(素案)」としてまとめたものであります。

この三つを中心に、事務局より説明をお願いいたします。

**【事務局】(松浦係長)**

本日の議題の説明に先立ちまして、課題の取り扱いと説明方法についてご説明申し上げます。

前回の会議におきまして、地域公共交通網形成計画の策定状況など中間報告に当たるものにつきましては、報告として挙げてはどうかという提案をいただきました。この件につきましては、市で検討いたしました、本日の議題のうち議題(1)につきましては、法に基づく議決事項ではございませんが、策定の方向性について委員の皆様にご承認いただきたいと考えておりますので、議決を要しない報告ではなく、議題として挙げさせていただきました。ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

また、小牧市地域公共交通網形成計画の策定につきましては、これを支援する業務について委託をしているところでございます。従いまして、当該委託の仕様書により、本日の会議につきましても受託者であります株式会社国際開発コンサルタント名古屋支店より3名が事務局員として出席させていただいております。つきましては、本日の会議の議題のうち小牧市地域公共交通網形成計画の策定に関する資料1-1、資料1-2及び資料2の説明につきましては株式会社国際開発コンサルタント名古屋支店より説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

**【事務局】(国際開発コンサルタント 加藤)**

それでは、議題「(1) 小牧市地域公共交通網形成計画策定状況について」のうち、「各種アンケート等の実施結果について」ご説明を申し上げます。

恐れ入りますが、お手元の資料1-1をお願いいたします。

本日も説明申し上げます資料1-1につきましては、前回の会議において説明した資料と重複する箇所がございますが、時間も限られておりますので、本日は前回の会議以降に追加した内容として、

資料1-1の表紙の目次に赤字で「<新規>」と記載しております従業員アンケート調査、各種アンケート等のクロス集計結果、交通事業者ヒアリング、公共交通地域懇談会及び調査結果のまとめのみご説明させていただきます。なお、今回追加した詳細な内容については資料1-2にまとめておりますので、こちらもあわせてご確認ください。

それでは、資料1-1をお願いいたします。

まず、4ページ右側をお願いいたします。従業員アンケート調査でございます。

従業員アンケート調査は、公共交通に関する企業アンケートを行った対象事業所のうち、本アンケートへの協力について了承いただいた24事業所の従業員を対象としまして、回収率は76.7%となっております。

2. 項目別集計結果でございます。

(1) 従業員の通勤時の交通手段については、問1④のお住まいの地域について、小牧市が約23%と最も多く、名古屋市、春日井市と合わせて約56%となっております。問2③の通勤手段は、自家用車が約65%と最も多く、自家用車の送迎を合わせると約70%となっております。問3の公共交通の利用が可能となる条件については、「駅やバス停から会社までの交通の利便性」が約31%と最も多く、次いで「乗り継ぎの利便性」となっております。問4の改善された場合、通勤に公共交通を利用しようと思うかの問いについては、内容が改善された場合でも公共交通を利用しない人が約62%と多い状況であります。

次に、5ページをお願いいたします。右側、各種アンケート等のクロス集計結果でございます。

各種アンケート等のクロス集計結果では、市民アンケート調査とバス利用者アンケート調査の結果について、年齢や路線などの属性別に集計を行うクロス集計により詳細な分析を行いました。

(1) 市民アンケート調査クロス集計結果でございます。問6の徒歩での移動可能時間について年齢別に集計した結果では、40歳代以上では年齢が高くなるほど「10分程度」までの割合が減少し、70歳以上では約60%にとどまっております。問7の鉄道やバスの乗り降りについて年齢別に集計した結果では、70歳以上では、「人の介助があれば乗降できる」「車イスのままであれば乗降できる」を合わせると約7%存在しています。

(2) バス利用者アンケート調査クロス集計結果でございます。

問7の利用目的について、名鉄バスの路線別に集計した結果では、名鉄バスの各路線では、どの路線においても「通勤」利用が最も多くなっており、約47%から82%を占めております。なお、名鉄バス間内・岩倉線につきましては、名鉄バスのほかの路線とは傾向が異なり、買い物利用が約23%を占めております。問8の乗り継ぎ利用について、名鉄バスの路線別に集計した結果では、岩倉駅に乗り入れている路線は名鉄犬山線との乗り継ぎ、春日井駅、勝川駅、高蔵寺駅に乗り入れている路線はJR中央本線との乗り継ぎ利用が多くなっております。

次に、6ページ右側、交通事業者ヒアリング調査でございます。

交通事業者ヒアリング調査では、小牧市内に営業所のある交通事業者全7事業者にご協力をいただき、公共交通の運行実態や安全確保に関する問題点、運行改善に係るアイデア等を調査いたしました。

調査結果ですが、(1) 公共交通全体の利便性を高めるために今後取り組みが必要と思われることや、小牧市や地域とのかかわりに関するご提案について、現状の改善に関する意見としては、交通ターミナルの整備やタクシーを利用しやすいようにすること等が挙げられております。今後の公共交通体系に関する意見としては、乗り継ぎ利便性の向上やタクシーの活用等が挙げられておりま

す。公共交通の利用促進に関する意見としては、観光客の誘致やバスの乗り方教室や交通安全教室、タクシーの試乗会の実施等が挙げられております。

次に、7ページ、「公共交通地域懇談会」でございます。

公共交通地域懇談会は市内の6地区で開催し、合計115名の方に参加していただきました。

開催結果ですが、公共交通地域懇談会での主な意見として、皆が利用しやすい公共交通のアイデアを確認いたしました。

こまき巡回バスに関する意見として、中央道の高速バスや北名古屋市のバスとの連携等による利便性の向上に関する意見、バス停をきめ細かく設置したり車イスの方などに対する配慮に関する意見、待合環境の整備やバス停名をわかりやすくする等のバス停に関する意見等が挙げられております。また、こまき巡回バスの運賃につきましては、65歳以上無料の継続を求める意見が挙げられた一方で、65歳以上の有料化や市外居住者の65歳以上の有料化を求める意見が挙げられております。

鉄道や路線バスに関する意見として、小牧駅での情報提供に関する意見や路線バスのルートやダイヤに関する意見等が挙げられております。

利用促進に関する意見として、老人会等への出前講座や地域別の情報提供等を求める意見が挙げられております。

その他意見として、タクシーの活用や隣接市町や地元企業との連携を求める意見も挙げられております。

最後に、8ページをお願いいたします。調査結果のまとめでございます。

こちらでは、小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る各種アンケート等の調査の趣旨である以下の四つの視点から調査結果をまとめております。今回は、＜新規＞と記載しております今回追加された内容と前回の会議内容を中心にご説明申し上げます。

一つ目は、「(1) 小牧市総合交通計画に掲げる施策の進捗状況を把握する。」であり、こまき巡回バスの路線再編や中央道桃花台バス停前ロータリー等の整備など、小牧市総合交通計画に掲げる施策には一定の効果があったと考えられます。

二つ目は、「(2) 各公共交通機関が連携して地域の交通需要に対応するため、それぞれの役割を明確化する。」でございます。市民アンケート問6の公共交通の利用が可能な徒歩での移動可能時間は、年齢が高くなるほど「10分程度」までが占める割合は減少しており、鉄道駅やバス停の近接性が求められております。市民アンケート問7の鉄道やバスの乗り降りについて、乗降介助や車イスでの乗車が必要な方が一定数存在します。特に70歳以上では、ほかの年齢より乗降介助や車イスでの乗車が必要な方が多く存在しています。バス利用者アンケート問8の乗り継ぎ利用では、岩倉駅へ乗り入れている路線は名鉄犬山線への乗り継ぎが、また春日井駅、勝川駅、高蔵寺駅に乗り入れている路線はJR中央本線への乗り継ぎが多くを占めております。このように路線バスから鉄道への乗り継ぎなど、複数の公共交通機関を乗り継いで利用する方が多い状況にあります。公共交通地域懇談会では、タクシーの活用も含めた各公共交通機関の連携を求める意見も挙げられております。以上のことから、小牧市地域公共交通網形成計画の策定に当たっては、市民の市内外への移動ニーズに対し、路線機能に応じた各公共交通機関の役割の明確化とさらなる相互連携が求められます。

三つ目は、「(3) 市民に許容される財政負担額や、利用者に許容される受益者負担額を把握する。」でございます。公共交通地域懇談会では、65歳以上の有料化や隣接市と連携を図った料金設定を

求める意見も挙げられております。以上のことから、小牧市地域公共交通網形成計画の策定に当たっては、現在の財政負担状況や市民及び利用者の意向を踏まえた受益者負担額の検討が求められます。

四つ目は、「(4) こまき巡回バスの各コースについて、乗降バス停やダイヤの妥当性などの実態を把握する。」でございます。通過時刻調査では、特定の区間での遅延増大や平日と休日の所要時間のずれが明らかとなっております。以上のことから、こまき巡回バスのさらなる利便性向上に向け、安全性・定時性を確保しながら、利用者ニーズに合致したダイヤの設定が課題です。

以上、議題「(1) 小牧市地域公共交通網形成計画策定状況」のうち、「各種アンケート等の実施結果について」の説明とさせていただきます。

続きまして、資料2をお願いいたします。「課題整理について」ご説明を申し上げます。

本日ご説明申し上げる資料2につきましては、前回の会議におきまして委員の皆様からいただいた意見や会議後に整理させていただきました各種調査等の結果を踏まえ修正を行ったものでございますが、時間も限られておりますので、本日はこの資料の中で主な項目のみ説明させていただきます。

「1) まちづくり計画や観光振興等と連携した公共交通ネットワークの構築」であります。地域公共交通網形成計画は、コンパクトシティの実現に向け、まちづくりや観光振興等と連携した公共交通ネットワークの形成を図ることを目的の一つとしております。

また、図1に示しますように、小牧市都市計画マスタープランにおける都市づくりの目標では、鉄道駅周辺等における拠点を中心に、多様な機能が確保された集約型市街地の形成を目指しております。さらに、図3に示しますように、今後の公共交通に期待する役割については、「名古屋へ行きやすいこと」が最も多く、「小牧市内の医療機関に行けること」「小牧市内の拠点間を結ぶこと」などが挙げられております。

以上のことから、このページの下になりますが、一つ目の課題として、小牧市が目指す多極ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けては、まちづくり計画、観光振興等とも連携し、公共交通を軸とした公共交通ネットワークを構築することが必要であります。二つ目の課題として、公共交通ネットワークの構築に当たっては、市民が望む市内医療施設等へのアクセス及び市内拠点間の連携に加え、名古屋への行きやすさに配慮が必要であります。

2ページをお願いいたします。「2) 多様化する市民ニーズ等に対応した公共交通サービスの展開」であります。

図4に示しますように、地区別の高齢者人口増減を見ますと、名鉄小牧線沿線や桃花台ニュータウン等の地域において高齢者人口が増加しています。

図6に示しますように、公共交通の乗降状況を見ますと、70歳以上では「ひとりで乗降できる」が約84%と他の年齢よりも低く、「人の介助があれば乗降できる」「車イスのままであれば乗降できる」を合わせると約7%存在しています。

以上のことから、三つ目の課題として、多様化する市民ニーズに対応するためには、高齢者人口の増加や公共交通の乗降状況を考慮したバリアフリー車両の導入、利用者の歩行圏域や地域住民意向を考慮したバス停設置等、必要に応じたサービスの展開が必要であります。

3ページをお願いいたします。

図9に示しますように、こまき巡回バスを週1回程度以上利用している市民の割合は約4%であり、一方で利用していない市民は約80%を占めています。さらに、公共交通地域懇談会では、バ

ス利用のアイデアとして、出前講座を実施し、情報提供を求める意見が多く挙げられております。

また、図12に示しますように、愛知県訪日外客動向調査（H27年度）によりますと、これら外客者、いわゆる外国人旅行者が不満に感じた点として、「観光施設・交通機関等の案内表示がわかりにくい」等が挙げられております。

以上のことから、四つ目の課題として、こまき巡回バスの認知度は高いものの利用していない市民が多い状況にあり、バスのダイヤやルート、料金、乗り継ぎに関する情報・案内等について、出前講座などを実施して周知することにより利用促進を図ることが必要であります。五つ目の課題として、市外からの来訪者に対しては、交通機関等のわかりやすい案内・情報の提供が必要であります。

4ページをお願いいたします。

図14に示しますように、こまき巡回バスの料金体系に対する市民意向は、「現状の料金体系を維持し、市負担額はこのままでよい」が約47%を占める一方、「65歳以上の料金無料を市内の方に限定して、少しでも市負担額を減らすべき」も約40%存在しています。

以上のことから、六つ目の課題として、こまき巡回バスのサービス提供に当たっては、適正な受益者負担に基づく料金設定や、福祉施策との調整を踏まえた料金割引制度の運用等の検討が必要であります。

5ページをお願いいたします。

図17に示しますように、利用者ヒアリングにおけるバス停間ODでは、こまき巡回バスの利用は小牧駅、小牧市役所前、小牧市民病院、桃花台センター、味岡駅といった主要なバス停と各地域のバス停間の利用が多くなっており、市内のきめ細かな利用が中心となっております。

一方、図18に示しますように、路線バスの利用のうち、乗車または降車のどちらかまたは両方が小牧市内のバス停である小牧市関連の利用について、小牧駅、岩倉駅、春日井駅、高蔵寺駅といった鉄道駅の利用が中心となっており、鉄道駅へのアクセス手段として利用されています。

また、図19に示しますように、こまき巡回バスと路線バスでは利用のされ方が異なっているものの、路線バス相互や路線バスとこまき巡回バスの乗り継ぎ利用は多くありません。

以上のことから、七つ目の課題として、持続可能な公共交通として利用者の確保・維持を図るためには、各公共交通機関が果たすべき役割・機能を明確化した上で、交通事業者や小牧市が連携して機能に応じたサービスの改善・提供の検討をする必要があります。八つ目の課題として、各拠点におけるバス路線相互の乗り継ぎ利便性を強化し、公共交通ネットワークとして機能した公共交通の構築が必要であります。

6ページをお願いいたします。

図23と図24に示しますように、通勤手段や通学手段として公共交通の利用を促進することに対して、「メリットを大いに感じる」とする割合は、企業が約22%、学校が約17%にとどまっております。

以上のことから、九つ目の課題として、地域公共交通の活性化及び再生の推進に向けては、過度な自動車利用から公共交通利用への転換を促すため、企業や教育機関などに対し公共交通の利用に対するメリット等を周知するなど、公共交通利用に対する意識改革を進める必要があります。

7ページをお願いいたします。

3) 公共交通ネットワークとしての評価・検証及び対応方針の明確化であります。地域公共交

通網形成計画は、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築とともに、計画の達成状況の評価と評価結果を踏まえた見直し方針のあり方を示すことも目的の一つとしています。

図25に示しますように、小牧市ではこまき巡回バスの評価・検証に係る基準を定め、各コースの1日当たり利用者数等の評価を実施しています。H28年度利用者実績（4月～11月）と評価基準値を比較した結果、全19コース中11コースにおいて評価基準値を上回った一方、利用者数が評価基準値の50%に満たないコースも存在することが明らかになりました。

しかし、こまき巡回バスの評価・検証に係る基準では、これらの評価結果を踏まえた見直し方針が示されていません。また、これらの評価はこまき巡回バスのみの個別路線評価であり、鉄道、路線バス等を含めた公共交通ネットワークとしての評価とはなっていません。

以上のことから、10個目の課題として、こまき巡回バスの評価・検証は個別路線としての見直しの必要性を把握する上で必要な指標ですので、今後も継続的な実施は必要ですが、地域公共交通網形成計画に掲げる目標の達成状況の評価する指標として、鉄道や路線バス等を含めた公共交通ネットワークとしての目標値の設定が必要であります。11個目の課題として、公共交通の評価に当たっては、路線が経由する地域の特性や利用の特性を踏まえた評価指標・基準値及び見直し方針（確保・維持・改善）の設定が必要であります。

8ページをお願いいたします。「課題整理のまとめ～小牧市総合交通計画で示される公共交通関連の課題との比較～」であります。

小牧市総合交通計画で示した小牧市における交通の問題・課題のうち、公共交通関連の課題は、表1に示しますとおり、まちづくりからみた問題・課題、公共交通の利用促進における問題・課題、生活交通の確保からみた問題・課題の三つの視点より、八つの課題が挙げられております。

9ページの表2をお願いいたします。

この表は、7ページまでに整理した課題との関係性について、小牧市総合交通計画で示した小牧市における問題・課題である三つの視点に基づき整理し、この表の右側の列で、小牧市地域公共交通網形成計画において継続する課題、変更・追加する課題と、その対応方向を整理したものでございます。

この中で今回変更・追加する課題としましては、まず、まちづくりからみた問題・課題の視点では、上位・関連計画との連携・連動を図り、公共交通の視点からまちづくり計画や観光振興を支援する施策が必要であります。

公共交通の利用促進における問題・課題の視点では、公共交通ネットワークの構築に当たって、名古屋への行きやすさに配慮すること、市外からの来訪者にもわかりやすい乗り継ぎ情報や案内を提供すること、市内企業のみならず市内教育機関の学生・生徒に対する通学時の公共交通利用の促進が必要であります。

生活交通の確保からみた問題・課題の視点では、高齢者人口の増加や公共交通の乗降状況を考慮した車両の導入、利用者の歩行者圏域等を考慮したバス停設置等や、適正な受益者負担に基づくこまき巡回バス運賃の設定、福祉施策との調整を踏まえた料金割引制度の運用、地域特性を踏まえたサービスの検討、さらに公共交通の評価・検証に当たっての公共交通全体としてのネットワーク評価の実施と、評価結果等を踏まえた見直し方針の設定が必要であると言えます。

以上、議題「(1)小牧市地域公共交通網形成計画策定状況」のうち、「課題整理について」の説明とさせていただきます。

【事務局】（松浦係長）

それでは、議題「（１）小牧市地域公共交通網形成計画策定状況」のうち、「基本的な方針（素案）について」ご説明申し上げます。恐れ入りますが、お手元の資料３をご覧くださいと思います。

持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針（素案）でございます。

中段の「１）小牧市地域公共交通網形成計画の基本理念」をお願いします。

この段落の３行目以降になりますが、現時点におきましても小牧市総合交通計画における公共交通の課題は変わらず、小牧市総合交通計画で位置づけられる公共交通軸の形成は、地域公共交通網形成計画が目指す面的な公共交通ネットワークの再構築の方向性と合致しております。このため、小牧市地域公共交通網形成計画で定める基本理念は、小牧市総合交通計画で示される基本理念を継承しながら、まちづくり計画や観光振興との連携をより明確にし、地域公共交通の確保・維持・改善を図るものとします。

なお、下の枠に書かれた「地域の活力と交流を育み、地域を支える持続可能な交通体系」が小牧市地域公共交通網形成計画が目指す基本理念であり、集約型市街地形成を誘導し、過度に自動車に依存することのない暮らしを実現すべく、公共交通による最低限の移動が確保され、さらに市民が進んで公共交通を活用し交流することにより、必要な公共交通ネットワークを維持・存続する持続可能な交通体系の構築を目指すものとします。

２ページをお願いいたします。「２）小牧市地域公共交通網形成計画の将来像」でございます。

小牧市地域公共交通網形成計画の将来像につきましても、基本理念と同様に、小牧市総合交通計画で定めた将来像を基本的に継承しながら整理し、さきに説明しました基本理念を展開したものでございます。

「将来像１ 活力あるまちづくりを支える交通体系」につきましては、第６次小牧市総合計画新基本計画の基本施策「都市交通」の目的である「各種の公共交通機関が有機的に連携する」に対応し、都市計画マスタープランに掲げる公共交通軸の形成や交通結節機能の強化・充実等により、集約型市街地の形成を支援します。

「将来像２ 持続可能な交通体系」につきましては、同じく第６次総合計画新基本計画の基本施策「都市交通」の目的である「より多くの市民が自ら進んで利用することにより、持続可能な公共交通ネットワークを構築する」に対応し、公共交通の利用を啓発するとともに、路線機能や利用特性に応じた交通サービスの提供の妥当性を検証し、必要な対策を検討します。

「将来像３ 地域を支える交通体系」につきましては、日常生活などに必要不可欠な交通手段の確保等の観点から、必要最低限の交通サービスを確保するとともに、全ての人が公平に移動できる交通環境の提供を図ります。

「将来像４ 交流を促進する交通体系」につきましては、観光振興との連携や広域性の確保の観点から、周辺都市との連携やわかりやすい交通サービスの提供を図ります。

また、その下に、小牧市総合交通計画に記載しました基本理念及び将来像との比較を表としてお示しさせていただきました。

将来像１について、小牧市総合交通計画では「小牧市の一体化を促進し」とありましたが、小牧市の一体化につきましては、全ての将来像に係る部分であると判断し、今回削除させていただきました。

また、将来像3について、「地域が」であった部分が「地域を」との表現に変更しておりますが、これは、国において交通政策基本法が制定され、日常生活等に必要不可欠な交通手段の確保等が定められたこと及び地域が公共交通を支えていく観点は将来像2でカバーできるものであるため、変更させていただきました。

また、小牧市総合交通計画では観光振興や広域連携といった観点が非常に弱い状況であったため、今回新たに将来像4として加えさせていただきました。

最後になりますが、地域公共交通網形成計画の策定に関し、庁内関連部署との横断的な検討を行うため、これまで説明いたしました資料1-1から資料3につきまして、昨年12月27日に小牧市地域公共交通網形成計画策定部会におきまして審議し、委員の皆様からご意見をいただいたところでありますので、その概要についてご報告させていただきます。

恐れ入りますが、お手元の資料2をお願いいたします。

5ページ下にあります<7>について、「各公共交通機関が果たすべき役割・機能を明確化した上で、交通事業者や小牧市が連携して機能に応じたサービスの改善・提供を検討する必要がある」としてありますが、「具体的な連携におきましては、市や交通事業者がお互いの責任・役割を認識し、公共交通の確保・維持や利用者の増加に向けお互いに努力する必要がある」との意見がありました。

続きまして、6ページをお願いいたします。

6ページ下にあります<9>において、「公共交通利用に対する意識改革を進める必要がある」としてありますが、「学生・生徒の通学による公共交通利用者が増加する見込みや具体的な事例がない中、目標に掲げていくのはよろしくないのではないか」というご意見がございました。

7ページをお願いいたします。

7ページ下にあります<10>において、「鉄道や路線バス等を含めた公共交通ネットワークとしての目標値の設定が必要」としてありますが、具体的な設定の際には、乗り継ぎのしやすさなどに加え、ネットワークそのものが必要かどうかの議論も必要であるとの意見がありました。

続きまして、資料3をお願いいたします。

資料3の2ページ、将来像2におきまして、「路線機能や利用特性に応じた交通サービスの提供の妥当性を検証し必要な対策を検討すること」としてありますが、適切な受益者負担について検討していくために、「負担とサービスのバランスを考慮しながら検討する」などの文言についてはどうかというご意見がございました。

本日は、これら策定部会の意見も踏まえながら、小牧市地域公共交通網形成計画策定に向け、皆様のさまざまなご意見をいただき、特に基本的な方針につきましては、これらを踏まえた修正を行った上、次回の会議に諮りたいと考えております。

以上、議題「(1)小牧市地域公共交通網形成計画策定状況について」の説明とさせていただきます。よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

#### 【磯部会長】

ありがとうございました。

議題(1)のところで3種類、資料1、2、3を使ってご説明をいただいたということでございます。策定の方向性についてご承認いただきたいということで、議題として挙がってきております。

この件につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、ご発言をお願いいたします。いかがで

しょうか。

### 【杉本委員】

運輸支局の杉本であります。

前回から非常に詳細な資料を出していただいて、ありがとうございます。非常に膨大な資料といえますかデータがそろったということで、これからこのデータをどう活用していくかというのが非常に重要になってくるかなと思っているところであります。

その中で、今回は従業員アンケート意向が新しく出していただいておりますが、従業員アンケートのところには当然企業アンケートもありますので、前回もあったかと思いますが、4ページのところです。資料1-1、4ページの左側、企業アンケート向けの調査のところ、3割が公共交通が望ましいと回答している。しかし、メリットを感じないというのも38.1%存在する。企業にとって公共交通を推進するという意味のメリット性がどこにあるのかを考えていく必要があるのかなと思います。

どちらとも言えないというところが40%ほどありますので、ここも合わせるとかなり、企業に関していろんなツールを出すことによって公共交通への転換を企業自らがしていくという取り組みも出てくる。ここら辺のところの分析が非常に重要なのかなと感じたところであります。

一方、従業員アンケートのところでいきますと、4ページの右側のところで、通勤手段としてやはり自家用車が65%と非常に多い状況になっています。このデータの地域別での割合みたいなものが、利用割合みたいなデータがあれば、ここを突破口として、地域ごとの利用促進のほうにも非常に役立つような形になるのかなと思います。

ただ、問4で、改善された場合に使うかどうかというところに関して、利用しないというのが62%もありますので、この改善されても利用しないという人の分析も非常に大事であります。改善されてもはなから利用しないよという考え方の方を少しでも転換していただくかというのが非常に大事なかなと思ったところであります。

長くなって申し訳ありません。

教育機関のアンケート調査の中で、5ページになります。通勤もそうでありますけれども通学も、自宅から学校までどういうふうに行っているのかということで、自転車が多いというのは多分そうだろうなと思います。自宅から駅まで自転車で行って、そこから公共交通機関を使って、向こうからは徒歩で行くとか、あるいは逆のパターンとかもあるのかなと思います。自転車を使って、あとは公共交通を使って、両方使ってという通学をされている方も多分いるのではないのかなと感じたところであります。

クロス集計の5ページ目の右側のところ、当然ながら70歳以上の方の徒歩の関係がやっぱり移動可能時間としては10分程度というのが多くなっているのかなと思います。逆に言えば、ここを市として、どういう基準といいますか、10分で歩ける距離がどれぐらいなのかなというところの基礎的な考え方みたいなものが出せれば、これをもとに空白地域の算出だとかいったもののデータにも活用できてくるのかなと感じたところであります。

6ページ目の交通事業者ヒアリング調査では、やはり総じてタクシーに関する要望、改善とか、タクシーを活用してもらいたいというご意見が非常に多いです。タクシーも貴重な公共交通という形が法的に位置づけられておりますので、網形成計画の中で面的なネットワークとして、福祉施策ともリンクしながら、どう活用されていくのか、活用していくのか。ここはぜひ事業者の立場から

も、こういった形の活用があるんですよということで提案をいただくと非常にありがたいのかなと感じたところであります。

利用促進策としては、観光関係のところになりますので、ルートマップとか基本的なコース、こういったふうに乗ればこういった観光施設に行けますよ、というような設定などは今後、網計画に限らず、利用促進策として考えていけるのかなと感じたところであります。

7ページ目の懇談会の意見の中で、特に運賃の関係、継続してほしいという意見と、65歳以上も若干の負担をしてもいいんじゃないのという意見、これは分かれて当然だと思います。ここをどう整理して精査しながらやっていくのかというところがまさにこれからの課題なのかなと思います。

その中で、有料化した中で、例えば定期券だとかいったものの発行だとか、いろんなツールを使って負担軽減も図れると思いますので、そういったものをぜひいろいろなパターンで提案していただければいいのかなと思っています。

ちょっと長くなりましたが、以上であります。

#### 【磯部会長】

今のところで何か事務局側から回答ございましたら、お願いいたします。

#### 【事務局】（国際開発コンサルタンツ 小林）

愛知支局の杉本委員からご意見いただいた多くの部分をご指摘部分だったと思います。その中で一つ、4ページで企業が何をどういったメリットを感じているかということにつきましては、前回お出しさせていただきましたように、企業さんとしては、公共交通を使うことによって企業が保有する駐車場用地の削減を図れるというお話であったり、従業員の方の交通事故に遭う確率が低減できるといったところにメリットを感じておられますので、企業さん側から見れば公共交通の利用促進というところは大きなメリットを感じる。

ただ、その一方で、従業員の方々はやはり自宅から駅まで、駅から企業までといった単発においてなかなか公共交通は使いづらい部分があって自動車を使うということがありましたので、今日はまだ課題ではありますが、今後基本方針を考えるに当たっては、小牧市内に多く分布する企業へのアクセスも一つ計画案として考えていきたいと思います。

それから、いろいろなクロス集計、地域別のクロスでありますけれども、今回ご協力いただいた企業さんの分布を一度見まして、クロス集計できる、地域によってクロスできるのか、もしかしたら企業の職種、製造業等々とかいったことでクロスできるかはちょっと考えたいと思います。また、どういうクロスをするのが効果的かは考えていきたいと思います。

学生アンケートにつきましては、生徒さんのご協力が今回得られませんでしたので、学校としての回答ですので、これはご意見としていただきたいと思います。

6ページの事業者ヒアリングの回答につきましては、事業者さんから、これから基本計画をつくる中で積極的な提案は当然受けて計画をつくっていきたくて考えておりますので、ご意見として承りたいと思います。

7ページの高齢者対策につきましては、小牧市さんが今後どう考えていくかという部分とのご相談でございますけれども、先ほど松浦係長から、前回の部会での回答の中でも適切な受益者負担、運行経費を多く、運行本数を、サービスだけを拡大するのじゃなくて、地域利用者の負担との関係

の中で出資率を一つ指標として考えていこうとされておりますので、適切な受益者負担、一律高齢者だけの無料化、市内外の取り扱いもありますけれども、それは小牧市さんが今後計画の中で考えていただけることかと思っておりますので、こちらについては基本計画の中で考えていこうとしております。

以上です。

#### 【磯部会長】

ありがとうございます。

まず、資料1-1、1-2の調査のところで何かご意見があったら、その方が整理しやすいのでお願いします。アンケート調査の実施結果について、何かご意見、ご質問等ございましたら受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【小柳委員】

1-1の、ちょっと理解ができない、僕が何か勘違いしているのかもわかりませんが、ちょっと教えていただきたいところがございます。

1-1の6ページですが、今後の公共交通体系の上から2番目の所ではありますが、交通結節点での乗り継ぎ利便性が重要になると記載されているところまでは当然だと思いますが、小牧駅ではバスから遠いなど、乗り継ぎの障壁をなくすことが必要であるという記載内容は、現在の小牧駅の乗り継ぎが非常に問題がまだあるということの意味しているのか。現状以上のことは、僕はちょっとできないような気がしておるんですが。ちょっと私が勘違いしとるのか、それとも何か小牧駅に問題があるのかということをもまず1点お聞きしておきたいと思えます。

もう1点、ページ数は今出ませんが、申し上げるのは、それぞれのアンケートをしていただきました。それぞれの結果が出てそれを集約されていますので、非常に集約は僕は立派にさせていただいているなと理解します。

ただ、残念なことに、地域懇談会を6箇所か7箇所で行っていただいておりますが、ここの市役所でやられたらと思うんですけども、参加者が3名というところがありますね。こういう状態はどのような評価をしているのか。大会議室で3名、小会議室で3名ならやむを得んかなと思うけど、大会議室を設定しながら3名しか集まらん、その意見を集約してということになるといささかという思いがありますので、その辺の捉え方をどうするかと思えますので、この二つをまずお聞きしておきたいと思えますのでよろしくお願いします。

もう一つは、特に企業向けに、事業所の従業員の皆さんに出していただいた、どちらもそうですけれども、現在はマイカー利用が非常に多いということです。ほとんどです。公共交通を利用することは比率的には低いということですが、これを公共交通に変えていくというのは、小牧の場合には、工業団地といっても莫大な広範な工業団地ではなくて、従来30年代に誘致した企業が、主要な企業が各地区に配置されております。こういうところをどうやって集約していくか、あるいはそういうところにどういう公共交通を利用できるような体系を整えていくかという、これは大きな問題だと思いますので、今度はその辺をどう課題として取り組んでいくかということになるかと思えますが、そう感じましたので、その点についての考え方を、お答えいただければありがたいと思えます。

【磯部会長】

いかがでしょうか、事務局側からお願いしたいと思います。

【事務局】（株式会社国際開発コンサルタンツ 小林）

まず、一番最初にご指摘ありました6ページの今後の公共交通体系の二つ目の小牧駅の件であります。言葉が抜けている部分がありました。小牧駅ではバスから遠いという文章に、主語がありません。これは、小牧駅でのタクシーとバスとの乗り継ぎが若干、西側と東側とに分かれていますので、その距離が離れている。タクシーとバスという、言葉が抜けておりましたので、訂正させていただきます。

二つ目の、地域懇談会の小牧地区の3名というところでございますけど、呼びかけは小牧市が各自治会等へ回覧を回す等、広報やいろんな媒体で広く募集をかけたところではありますが、結果的に当日ドタキャンの方もお見えになられて、最終的に出席者は3名という結果でありました。

しかし、この3名の方からいただいた意見についても、今回いただいた意見を一つずつ精査させていただいて、盛り込むべきものは盛り込んでいきたいと考えております。

以上でございます。

【磯部会長】

企業等の対応というのはまた後のほうで出てくるかと思しますので、そのときに回答をお願いします。

他いかがでしょうか、このアンケートのところをお願いします。よろしいでしょうか。

次の、資料2と3のところですね。課題整理と基本的な方針のところでは何かございますでしょうか。

先に事務局から、先ほどの答えについて再度意見があるようでありますのでよろしくお願ひします。

【事務局】（国際開発コンサルタンツ 小林）

先ほど杉本委員からご意見のありました、歩行距離のお話であります。ここでは指標としまして時間であらわしてございますけれども、一般的に歩行距離時速4kmという概念、一般の健常者の方でありますけれども。そうすると、10分とすると600mから700mとなります。

ただ、一概に全てが健康な方ではございませんので、高齢者の方のことを考えれば、一般的には700mかもしれませんが、500m程度になってくるかとの考えから、小牧市さんではバス停の設置の検討は500mを基本としております。ここから見えてくるところは、現在小牧市さんのバス停設置で考えている500mという概念におきましては、多くの方々がその設置基準を超えるような距離で歩いていただけるという理解はしてございます。

【磯部会長】

ありがとうございます。

では、杉本委員、追加がございましたら。資料の2と3について質問をよろしくお願ひします。

【杉本委員】

運輸支局の杉本です。

資料2のところ、先ほどと重複するところもありますので、重複するところは避けたいと思います。

例えば4ページのところ、ピーチバスのところで利用者アンケートにおいて、不満足度が高い項目で時刻表どおり発着しないという不満があります。定時性を確保するという要件としてどのような形を考えられるのか。これが計画を策定していく中、あるいは、当然定時性、渋滞とかいったものの解消が一つの方法にもなりますので、そこら辺のところの考え方みたいなものをお聞かせいただければと思います。

6ページ目の<9>のところですが、これは従業員、企業向け、教育機関向けへのアンケート結果に応じて書いてありますけれども、当然全般を通して市民との協働は必要だと思いますが、特にこういったところにも散りばめながら、企業、教育機関のみならず市民との協働による周知、PRが必ず必要だということを改めてやっていただければなと思ったところがあります。

7ページ目の<10>、<11>の評価のところですが、巡回バスの評価・検証もそうですし、民間路線バスの評価も含めて、それぞれの役割があらうかと思います。これから網計画策定に当たって、今でもそうでありますけれども、民間路線バスあるいは巡回バスそれぞれの役割、それに応じた基準、目的に応じた基準にしていくべきだろうと感じたところがあります。

以上であります。

#### 【磯部会長】

ありがとうございました。

事務局からお答えいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 【事務局】(河村主幹)

恐れ入ります。先ほどの杉本委員のご意見を踏まえまして、私から一つ、私の所見を発言させていただきたいと思います。資料2の3ページをお願いします。

五つ目ですが、まずこちらは先ほど国際開発コンサルタンツ(株)のほうからありましたが、今回行いました公共交通地域懇談会の中で、市のほうが懇談会を開くのではなくて、できれば職員が各地域の寄合などに出向いて、例えば巡回バスの乗り方だとかを教えていただけると、より利用者が増えるんじゃないかということで、こちらは非常にいい意見だと思ひまして、出前講座を来年度から積極的にお地元に出向いて開催していこうと事務局で思っております。

もう一つは、その下でございます。先ほど資料1-1の中で事業者ヒアリングでタクシーのお話がありました。こちらで、実は毎年11月に「いきいきこまき」という事業が市であるんですが、こちらで名鉄バスさんとあおい交通さんのご協力をいただきましてバスの乗り方教室を毎年開催させていただいております。これに加えて、タクシー事業者さんからタクシーの試乗会も開催したらどうかという貴重なご意見をいただきました。こちらにつきましては、事務局で来年度のいきいきこまきの中でできないかなと考えておりますので、こちらは来年度のいきいきこまきに向けて検討していきたいと考えております。

以上でございます。

#### 【磯部会長】

杉本委員からのご発言に対してのお答えをいただければと思います。

**【事務局】（国際開発コンサルタント 小林）**

まず、1点目のピーチバスの定時性のご指摘であります。通過時刻調査はこまき巡回バスしか実施しておりませんので、ピーチバスにつきましては、あおい交通さんとかこういった課題について個別にお話をさせていただきまして、現状の詳細を把握するとともに対策を考えていきたいと考えております。

2点目の市民協働、これはおっしゃるとおり企業、学校以外にもというご意見でございますので、当然これは今後計画を作って、目標達成するために行う事業の中で、市民との協働は全ての項目に対して取り組んでいくべき内容と捉えております。

3点目の評価につきましては、小牧市さんは、今個別の路線しか、個別の路線といいますが巡回バスの路線評価しかお持ちでございませんので、地域公共交通網形成計画は公共交通全体としてのネットワークの計画でございますので、こちらにつきましても市で、こまき巡回バスに限らず、民間路線バス、また鉄道等を含めた公共交通全体としてのWin-Winの関係が保てるような評価・指標、又は基準を作り、基準を達成すれば利用者の方へのサービス水準を向上させる一方、達成しないものについてはどこに問題があるのかといった評価に関する事項についてもこの計画の中で作っていく予定でございますので、次回また来年度の部分でお出しさせていただけるかと思っております。

**【磯部会長】**

よろしいでしょうか。

今のは資料2で、課題整理で大きく三つの柱が作られたと考えています。その中の内容として少しずつ書き出しを行いました。それだけじゃまだ足りないんで、三つの柱に基づいてもう少し充実させていくということでお認めいただきたいということです。

**【古田委員】**

バス協会の古田です。

資料2の3ページの真ん中辺にあります愛知県への訪日外客動向調査によるということで、ここには唐突に、田縣神社が約2%存在していますというふうに書いてありますけど、何人ぐらい来たのか。田縣神社がどのぐらいの順位なのかよくわかりませんが、それが前段に書いてありまして、これらの外客者が満足した点は図11とか、不満に感じたというのが図12でありまして、ここに書いてあるのはあくまでも愛知県に来た外国の方が感じたことであって、これを受けて課題の一番下のところに「<5>市外からの来訪者に対しては、交通機関等のわかりやすい案内・情報の提供が必要です」と書いてあるのは、これはあくまでも愛知県の外国人が来たときの受けたことであって、小牧市が特に市外からというような形であってわかりやすい案内・情報というのを上のところから引っ張ってくる必要性は全くないと思っておりますが、いかがでしょうか。

**【磯部会長】**

3ページのつながりですね、例題と言いたいこととの関係です。何か事務局側からございますでしょうか。

**【事務局】（国際開発コンサルタント 小林）**

ご指摘のとおり、ここでの因果関係の部分でございますけれども、来訪者のうちの一つとしまして、個別の外国人の小牧市に関連する調査はございませんでしたので、愛知県全体についての集計でございました。

ただ、愛知県の中でも小牧市の田縣神社への来日外客者についても上位に占める部分でございましたので、間違いなく愛知県に来られている外国の方が小牧市に訪れるということは、一つここは間違いのない部分でございます。

その中で、たしか上位3位には入っていたかと思いますが、その中でも外国の方の不満とした中でも情報がちょっとわかりにくいというところがありましたので、因果関係云々の話もでございますけれども、外国の方がわかりやすい、これから小牧市の地域公共交通網形成計画を考える中では、来訪者を公共交通を使って来ていただきたいという基本方針を一つ立てようとしておりますので、その中での一つの指標としてここでは整理させていただいた部分でございます。

**【磯部会長】**

要は、図11、12が愛知県全体という話で、ここで言いたいのが小牧市の話であるとなると、ちょっとその辺の整合性が悪いんじゃないかなというご指摘であります。愛知県全体広いので、愛知県のどこを意味してこの図11、12が出てきているのかなというのが気になる場所がありますので、その辺の整合性が気になられたということで、何かありますか。

**【事務局】（松浦係長）**

ただいま古田委員からご指摘ありましたとおり、こちら愛知県への訪日外客動向調査に基づいて下の指標が来ておりますが、現在小牧市におきましても観光振興に力を入れているところがございますので、そういった文言を踏まえて修正させていただいて、下の文言の<5>につなげていきたいと考えております。

以上でございます。

**【磯部会長】**

その辺ご検討ください。

他いかがでしょうか、資料2とか3のあたりでお願いします。

素案というので、基本理念というのでキャッチフレーズで、資料3の1ページ目で「地域の活力と交流を育み、地域を支える持続可能な交通体系」という形で、将来像が1から4までであるという形で考えているということでありまして、資料2からの連携でこういう形を想定しているということになります。この辺で何かご意見ございませんでしょうか。

今回の場合はあくまで中間的なところでありますが、方向性を皆さんで確認して承認していただくということでございますので、細かい内容はまだまだいろいろと入れかえができるということでございますけれども、資料1、2、3を通して何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしますと、一応これで資料1、2、3の細かいところは修正をいろいろやっていきますけれども、大きな方針としてご承認いただけますでしょうか。

**【小柳委員】**

資料3の2ページの将来像4、交流を促進する交通体系ということで観光振興ということがうたわれておりますので、先ほどのご質問も、県の資料と実際に取り組むのというような疑問があったと思いますけれども、私自身は、いよいよ小牧山も整備をされ資料館もできるということで、対外的には観光名所としての位置をつくり上げていかなきゃならんというふうに、僕は地元の人間としてはそう思うんです。そういうことから、小牧の観光名所をPRして、外から迎え入れる体制を整える必要があるのではないかと思います。

ただ、残念なことに世界遺産になるようなものはありませんけれども、それなりに小牧は小牧なりの見ていただくところが、観光もあるでしょうし、工業技術の点もあると思いますので、外から来る方々の受け入れ態勢もしっかりやる必要があるだろうと思って、これについても含めて、こういう形でいいのではないかと、思っております。

**【磯部会長】**

ありがとうございます。

観光というと、さっきの神社だけじゃなくていろいろあるんじゃないかという話で、一つは小牧山を挙げてもらいましたし、私も市外の人間ですけども、やっぱりメナード美術館は割と有名ですし、パークアリーナ小牧、これはスポーツの関係ですけども結構全国から来られるというのがあります。それも含めまして観光振興という形でやっていただければと思っております。

何か皆さんからありますでしょうか、他よろしいでしょうか。

では、この資料1、2、3で交通網形成計画についてのいろんな準備をしているところでありますが、方向性について認めるという形でご異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

**【全委員】**

異議なし

**【磯部会長】**

ありがとうございます。

議題（1）につきましては、原案の方向で承認されました。

続きまして、議題「（2）こまき巡回バスのダイヤ改正」であります。これは、前回承認いただきましたこまき巡回バスの55番系統の田県・岩崎原コースのルート変更と、小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る各種アンケートの中で実施しました通過時刻調査に基づきダイヤ改正を行うものであります。

まず、この件につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局】（松浦係長）**

それでは、議題「（2）こまき巡回バスのダイヤ改正について」ご説明申し上げます。

恐れ入りますが、お手元の資料4-1をご覧くださいと思います。こまき巡回バスのダイヤ改正に関する概要でございます。通過時刻調査の結果につきましては資料1-2の126ページから137ページ、ダイヤ改正後の時刻表と具体的な変更内容につきましては資料4-2にそれぞれまとめてありますので、あわせてご確認ください。

今回のダイヤ改正の目的といたしましては、55 田県・岩崎原コースのルート変更に伴い当該コースのダイヤを改正することにあわせ、平成28年9月に実施した通過時刻調査の結果に基づき、平成28年4月に再編した北部・東部地区を運行するコースのダイヤを改正し、日常的に発生している遅延を緩和することにより、乗り継ぎ利便性を考慮しながらこまき巡回バスの定時性向上を図るものでございます。実施日は平成29年4月1日であり、対象となるコースは北部・東部地区を運行する全10コースであります。

本来であれば全ての変更点をご説明するべきではございますが、時間も限られておりますので、要点のみをご説明させていただきます。

16コースから19コースにつきましては、遅延が増大しているバス停間の所要時間を延ばし、小牧駅や味岡駅などの待機スペースが確保されているバス停での待機時間を増やすことで遅延の解消を図っており、それに伴って始発から終着までの所要時間が延びております。

続きまして、55コースについてでございます。

前回の会議でご承認いただきましたルート変更に伴い、田県神社前駅バス停を一色保育園東バス停と田県神社前駅西バス停の間に追加いたしました。また、利便性と定時性の向上を図るため、1便の始発バス停を「田県神社前駅西」から「田県神社前駅」に変更いたしました。なお、今回のルート変更に伴い、全便の所要時間が2分延びております。

続きまして、56、57コースについてでございます。こちらにつきましては、遅延が増大しているバス停間の所要時間を延ばすとともに、幹線系への乗り継ぎ利便性を向上させるため、各便の始発時間を調整いたしました。これに伴い、所要時間が2分から5分延びております。

最後に、58、59、60コースについてご説明申し上げます。

この3コースにつきましては、遅延が大きく増大する区間は見受けられませんでした。一部の便におきまして始発バス停から数分の遅延が発生している状況でございました。現在この3コースは桃花台センター（上）を基点に1台の車両で運行しております。桃花台センター（上）到着後すぐに次のコースの運行を開始しているところでございますが、遅延が蓄積する便を中心に、コースとコースの間に1分ないし2分間の待機時間を設け遅延解消を図りました。

また、参考として、今回の再編で時刻表の差しかえ等が必要となるバス停数でございますが、時刻表の差しかえを行うバス停は、小牧駅を含む262基、移設するバス停数は、田県神社前駅の1基、合わせて263基のバス停となります。

以上で議題（2）「こまき巡回バスのダイヤ改正について」のご説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

#### 【磯部会長】

駅前広場の完成でバス停を一つずらすという形と、遅延が発生しているところは実態に合うように時刻表を書き直しましたということでございますけど、何かご意見、ご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これ原案どおりご承認いただけますでしょうか。

#### 【全委員】

異議なし

【磯部会長】

異議なしということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、これを承認させていただきます。

続きまして、議題「(3) 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について」であります。

これは、小牧市地域公共交通網形成計画の策定を今やっているわけですけど、これは国の補助対象事業でございます。この事業に加えて、地域全体のネットワークを踏まえた評価を行うということで自己評価というのをやっておくことになっておりますので。

この件につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】(松浦係長)

それでは、議題「(3) 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について」ご説明申し上げます。

まず、資料の説明に入ります前に、本年度から策定を進めております地域公共交通網形成計画は、国の補助事業である地域公共交通確保維持改善事業の中の地域公共交通調査事業(計画策定事業)として実施しており、この事業が地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価の対象事業となっているため、地域全体の交通ネットワークを踏まえた評価及び見直しを行うことを目的に自己評価を実施するものでございます。

それでは、お手元の資料5をご覧くださいと思います。平成28年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について(全体)でございます。

まずは、「1. 協議会が目指す地域公共交通の姿」であります。ここでは小牧市の概要と小牧市総合交通計画の概要を示し、この計画に基づきこれまでさまざまな施策を実施してきましたが、社会的動向等が変化したため、小牧市総合交通計画の内容をベースとしながら、小牧市地域公共交通網形成計画の策定に向けた調査を実施する必要があると記載しております。

2ページをお願いします。「2. 計画の達成状況の評価に関する事項」でございます。

ここでは、これまで策定した計画等においてどのような評価を行うこととしているのかを記載する部分であり、平成22年度に策定した小牧市総合交通計画で掲げましたPDCAサイクルに基づく評価、こまき巡回バスの評価・検証に係る基準、それから地域間幹線系統である名鉄バス間内・岩倉線と桃山線につきましても、直近の利用者数の実績値を目標値としていることを記載しております。

続きまして、「3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容」でございます。ここでは、目標の達成に向けて取り組んだ内容としまして、本年度実施しております地域公共交通網形成計画策定をはじめとする取組みについて記載させていただいております。

「1) 地域公共交通網確保維持改善事業の取組み状況」としましては、これまで取り組んでまいりました地域特性と公共交通の現状整理、公共交通ネットワーク評価に関する全国事例の収集・分析、各種ニーズの把握、それから3ページになりますが、地域公共交通の課題整理及び現在の予定でございますが基本方針案の策定を記載させていただいております。

「2) 協議会の開催状況、議論の内容」としましては、予定も含めて、今年度実施しました地域公共交通会議の開催日及び内容について記載させていただいております。

「3) 公共交通利用促進に係る取り組み状況」としましては、本市において今年度実施しました公共交通利用促進に関する取り組みについて記載させていただいており、主なものとしては、昨年4月2日及び3日のこまき巡回バス再編のPRのため市内全コースにて無料運行の実施、昨年7月の北里小学校及び北里中学校の児童・生徒に対する名鉄バス間内・岩倉線のPRチラシの配布、昨年9月25日の国際交流協会主催の日本語教室におきます公共交通利用促進協議会による外国人向けバス乗り方教室の開催、昨年10月中旬のこまき巡回バスの車体への児童・生徒の絵画のラッピング、続いて4ページになりますが、昨年11月19日及び20日の2日間にわたる「いきいきこまき」における公共交通利用促進協議会協力のもとバス乗り方教室の開催、昨年12月1日のこまき巡回バスのインターネット上における乗り換え案内サービスの開始などがございます。

続きまして、「4. 具体的な取り組みに対する評価」でございます。

小牧市総合交通計画に掲げる施策パッケージについての事業達成状況の評価につきましては、前回の会議で説明した内容でございますが、一定の評価があったものと考えております。また、こまき巡回バスの評価・検証に係る基準に基づき、平成28年4月から11月におけるこまき巡回バス各コースの1日当たりの利用者数を評価基準と比較した結果、全19コース中11コースにおいて評価基準値を上回った一方、利用者数が評価基準値の50%に満たないコースも存在することが明らかとなりました。さらに、公共交通ネットワーク評価に関する全国事例の収集・分析や各種ニーズの把握等により、先ほどの議題(1)でご説明させていただきました課題を抽出したところでございます。地域公共交通会議におきましては、これまでの調査の結果を踏まえ、小牧市総合交通計画に掲げる施策の評価を行うとともに、これら調査の結果から導き出された課題等について議論を行いました。

5ページをお願いいたします。

こまき巡回バスをはじめとする公共交通の利用促進に係る取り組み等により新たなコースやダイヤ等の周知が図られた結果、平成28年4月から11月までのこまき巡回バス利用者数は、昨年同期間と比較し本年4月に再編を行ったコースは約47%増加、昨年4月に再編を行ったコースは約6%増加し、全体では約26%増加しております。

なお、地域間幹線系統である名鉄バス間内・岩倉線及び桃山線は、平成28年4月から11月の利用者数を前年同期間と比較しますと、間内・岩倉線は約8.2%の増、桃山線は1.4%の減少となっております。

続きまして、「5. 自己評価から得られた課題と対応方針」であります。

今回の調査において得られた課題と小牧市総合交通計画における課題を比較したところ、今年度策定予定の小牧市立地適正化計画との整合、名古屋への行きやすさへの配慮、市外からの来訪者に対するわかりやすい情報提供、公共交通全体としてのネットワーク評価の実施と、評価結果を踏まえた見直し方針の設定等が新たな課題として浮かび上がってきました。

しかし、継続した課題も多く残っており、また小牧市総合交通計画で位置づけられておる公共交通軸の形成は、小牧市地域公共交通網形成計画が目指す面的な公共交通ネットワークの再構築の方向性と合致しており、これまで実施してきた各種施策の大幅な転換を伴うものではありませんでした。

従いまして、先ほどの議題(1)で意見聴取させていただきました内容となりますが、小牧市地域公共交通網形成計画で定める基本的な方針につきましては、小牧市総合交通計画に掲げる基本理念・将来像を継承しながら整理し、新たな課題にも対応していくこととしました。

計画策定事業は当初予定していたとおり進捗しており、今後は、計画策定のために実施した各種

調査や地域公共交通会議における議論の経過を踏まえ平成28年度中に基本方針案を策定し、平成29年度にはこれに行動計画に係る部分を加え小牧市地域公共交通網形成計画を策定します。

なお、こまき巡回バスにおける定時性の確保に係る課題につきましては、先ほどご承認いただきましたとおりであります。計画策定を待つことなく、平成29年4月のダイヤ改正によりできる限りの解消を図ることとしております。また、今後もさまざまな機会を捉えて公共交通利用促進に係る取り組みを実施し、地域間幹線系統の路線についても利用者数の増加を目指します。

続きまして、6ページをお願いいたします。

6ページの資料につきましては、今年度取り組んだ事業のうち国の補助事業に係る部分について改めて事業評価したものであり、1ページから5ページまでに記載した内容の一部を「①事業の結果概要」、「②事業実施の適切性」、「③計画策定に向けた方針」として記載したものでございます。この中で真ん中の「②事業実施の適切性」の列にA・B・C評価を行うこととなっておりますが、本事業は現在予定どおり進捗しているため、Aとさせていただきます。

以上、議題「(3) 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について」の説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

#### 【磯部会長】

資料5についてご説明いただきました。

自己評価というのは、この地域公共交通会議が自分達のやっている仕事をまず自分で評価して、自分で評価するというのは何かと云ったら、やっぱりいいところ悪いところが見えてくると、自分が一番よく知っていると、とにかくいいところは伸ばして悪いところは反省するというのでございまして、包み隠さず素直に書いていくということでございます。

補助金をいただいた関係で国に提出するという資料でありまして、最初のほうは市全体で行っている話でありますけれど、最後の1枚が補助金をもらっているところでの評価という形になっており、合わせて提出するという形でございます。

何かこれについてご意見、ご質問等ございましたら。いかがでしょうか。

#### 【桑原（代理：山口）委員】

愛知県振興部交通対策課の山口と申します。

私から、地域間幹線系統の事業評価について補足で説明させていただきます。

地域間幹線系統、小牧市さんの場合ですと間内・岩倉線と桃山線になるんですけれども、こちらは国庫補助の関係で県のバス対策協議会で地域間幹線系統確保維持計画を策定することにより国庫補助の対象となっております。そのため、こちらは県のバス対策協議会で自己評価を行って国に提出する形となっております。

自己評価の行い方としましては、運営主体でありますこちらですと名鉄バスさんに利用実績等をご記入いただきまして、沿線市町村さん、間内・岩倉線ですと岩倉市さんと小牧市さん、桃山線ですと春日井市さんと小牧市さんに配布して理由等分析を行っていただき、それをこちらの交通対策課でまとめる形で作成させていただいております。

地域間幹線系統は県の協議会で策定しておりますが、もとよりお地元の取り組みが必要であります。そのため、自己評価や沿線市町村としての所見等をいただくに際して、できるだけこちらの公共交通会議で話題にさせていただくようお願いしております。

ご出席の皆様におかれましても、この系統についてご関心を持っていただきまして、今後とも利用促進に努めていただきますよう、県の方からもよろしくお願いいたします。

すみません、以上です。

#### 【磯部会長】

ありがとうございました。

ただいまの県さんの話は、この資料に関連してご発言していただいたという話であります。つまり、自己評価というのが、小牧市さんが国に対して補助金をもらってやっているところの補助金に対する自己評価ですけれども、実は市をまたぐ路線バスは国から補助をいただいている、名鉄バスさんが補助をいただいているというので、自己評価をしてやっていくという話でございます。関心を持っていただきたいという趣旨のご発言だということでございますけれども、あわせて何かご意見、ご質問がありましたら承りますが、いかがでしょうか。

#### 【杉本委員】

すみません、運輸支局の杉本です。

この自己評価の関係、中部様式というふうにしてありますので若干私から補足しなければいけないのかなと思っております。

国の補助を使っていますので、当然これに関して適切にお金が使われているのかということ国がやはりチェックしなければいけないということから、別添1という自己評価、計画策定に係る事業を国土交通省へ提出するということとなりますが、私ども中部運輸局では中部様式として、そうではなくて、補助対象の事業ばかりを評価していても、全体のネットワークが崩れていては何ともならないのではないかとということで、地域公共交通全体のネットワーク評価ができるような様式にしたいということで、この中部様式というのを定めています。

もう1点、これを定めた背景としましては、地域公共交通網形成計画をこれから策定していただくこととなります。交通網形成計画の中には、一つ大きな要点として、評価指標を作らなければいけないと、自ら評価するシステムを作っていくということとなります。ぜひこの様式を策定しながら、有効に使っていただいて、計画をしっかりと評価できるような様式にできないかとということで、このような様式を定めさせていただいております。

最終的にはこの様式が積み重なって、あるいは公表していただくこととなりますので、ホームページとかにアップしていただきますので、市民の皆さんの目に届くということになれば、自分達の市の公共交通が今どういう計画でどういう状況になっていて、どんな事業がされていてということを見ていただけるような資料になるかと思っておりますので、そういった意味でもぜひこういったものをうまく活用しながら、計画の評価あるいは小牧市さんの公共交通が持続可能なネットワークの構築に向けて進んでいただくような形で取り組んでいただければと感じています。

その中で、先ほどもありました地域間幹線という部分の中、先ほど評価の中にも、一番最後に間内・岩倉線と桃山線の評価の関係が入れてありますが、全体評価のこういった幹線系統のところもしっかり評価していただくということからすれば、網計画も含めて、そういった評価をしていただければと感じているところであります。

以上であります。

**【磯部会長】**

ありがとうございます。

この様式で、杉本委員がおっしゃったように、本来なら形成計画ができた後に初めて役に立つような形でございます。小牧は、その前に独自で総合交通計画を作っていますので、総合交通計画をPDCAでいろいろと回しているという状況を書き込んでいるわけですからおかしくはないんですけども、形成計画ができましたら、まずは形成計画の進捗管理をこういう形でぜひやっていただきたいということだと思いますので、よろしく願いいたします。

このまま承認させていただきまして、よろしいでしょうか。

**【全委員】**

異議なし

**【磯部会長】**

異議なしという形で承認させていただきます。どうもありがとうございます。

以上で議題は終わりました。

皆様には、慎重にご審議いただきましてありがとうございます。

続きまして、次第の3、報告に入ります。

報告、名鉄バス間内・岩倉線に関する補助の継続についてでございます。

名鉄バス間内・岩倉線は、平成26年度第1回の地域公共交通会議におきまして地域住民の生活に必要なバス路線としてご承認をいただいた路線であります。この路線の現在の状況と今後の市の方針についての報告であります。

まずは、この件につきまして事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局】（松浦係長）**

それでは、報告事項としまして、「名鉄バス間内・岩倉線に対する補助の継続について」ご説明申し上げます。

こちらの内容につきましては、先ほどの資料5で触れさせていただいたところでございますが、名鉄バス間内・岩倉線に対する補助の継続についてご説明させていただきます。

間内・岩倉線につきましては、市民の日常生活に必要な交通手段として確保・維持する必要がある生活交通路線として位置づけられていることから、国庫補助事業の対象路線となっております。また、本市におきましても、平成26年度第1回地域公共交通会議におきまして、国と同様に地域住民の生活に必要なバス路線であると承認された路線であることから、国庫補助金を充当しても賄えない赤字補填分を市が補助しております。

続きまして「2、現在の状況」についてでございますが、現在の間内・岩倉線の利用状況については推移表のとおりとなっております。利用者数は増加傾向にありますが、目標値であります1カ月当たり3,379人には到達していない状況でございます。

「3、本市の方針」でございますが、この路線の市補助の継続につきましては、平成26年8月の運行を開始する時期におきまして、路線の認知や利用者定着の期間を考慮して、およそ3年をめぐりに検証することとしておりました。

名鉄バス株式会社からは、今年度5月に実施した利用状況の調査結果から平成30年9月までは生活交通路線として国庫補助事業の交付申請が可能となる見込みであると伺っておりますので、本市としましても補助を継続して実施していきたいと考えております。

また、それ以降の補助の継続につきましても、毎年5月に名鉄バス株式会社が実施する利用状況調査の結果に基づき、翌年10月から翌々年9月までの1年間に対する国庫補助事業の交付申請が可能であれば、継続して市も補助を実施していきたいと考えております。

最後に「4、利用促進策」でございますが、今後も継続してホームページ、沿線地区回覧等による利用周知を図るとともに、事業者と協力しながら、地域住民の皆様にご利用いただけるようさまざまな利用促進策を検討し、実施していく予定でございます。

以上で「間内・岩倉線に対する補助の継続について」の報告を終わらせていただきます。

#### 【磯部会長】

ありがとうございました。

これは報告という形でございますけど、何かご意見、ご質問がございましたら受け付けますが、いかがでしょうか。

#### 【近藤委員】

名鉄バスでございます。

補助につきましては、ありがとうございます。

この路線の成り立ちに関しましてですけれども、間内・岩倉線、今度3年目だということですがけれども、今回のこの書き方からもわかるように、国の補助が出るようなので小牧市さんも補助をいただけるということですが、非常に路線の維持とか補助に関する動きはかなり早くなっておりまして、平成29年に入ったところですがけれども平成30年がというものが文書の中に入っているように、かなり早く早くにものをやっつけていかなきゃいけないということがあります。

そして、ここでまた今年も5月に調査がありまして、それ以降の補助について決まるということ。そして、そこでもし国での補助ができないようだったら小牧市さんもちょっとということですので、やはり路線の維持に関しましては我々も早め早めにデータは出していきますので、何か大きな動き等があるようなことが想定されるとするならば、早くに検討させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### 【磯部会長】

ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。利用促進という話もございましたし、何かご発言あればお願いします。

#### 【小柳委員】

ちょっと質問ですけれども、順調に、ここには目標値である、月に3,379人の乗車以上が目標になっているみたいですが、順調に伸びてきたように見えるけど、11月は少し減少しておるんですが、何か問題があったのか、その辺の把握はあるんですか。

12、1、2、3月、順調にいけばかなり、3,379人により近くなってくるような気がするんですけど、11月に減っておるのが気になるなということを思いましたので、わかれば教えて

いただきたい。

**【事務局】（松浦係長）**

小柳委員のご指摘のとおり、11月につきましては前年度より利用者が減っている状況でございます。こちらの理由につきましては、まだ詳細な分析をしておりませんので把握はしておりませんが、今後の利用状況を注視していきながら分析していきたいと考えております。

以上でございます。

**【小柳委員】**

増えることを願っています。

**【磯部会長】**

この路線について、何かありますでしょうか。

これは先ほどの資料1でも調査の対象になっていまして、やってみますと利用の目的がほかの路線とちょっと違っているということがあるので、ひょっとしたらまだ使っていない目的、違う目的でまだ使えるチャンスがあるのかもしれないし、またはほかの路線とは違った意味合いで皆さん使っているのかもしれないし、その特性を把握して、伸ばせるところは伸ばしたほうがいいかなというのは私個人的に思ったことですので、分析をお願いします。

**【事務局】（河村主幹）**

この名鉄バス間内・岩倉線に関しましては、先ほどのアンケートでもありましたが、名古屋のほうに行きたいというアンケート結果から、非常にそういったご意見も多かったことに伴いまして、名鉄犬山線につながる間内・岩倉線というのは生活路線でいえば非常に重要なバス路線だなと市も考えております。

先ほどの小柳委員のご意見でも、3,379人には到達しておりませんが、年でいきますと徐々に増えているのは事実でございます。市としましては、近々自治会のほうにもこういったPR、ぜひご利用くださいということでチラシ、回覧を回させていただきますし、一人でも多くの方にご利用いただけるよう市も努力してまいりたいと考えておりますので、皆様方のご協力をよろしく願いたいと思います。

以上でございます。

**【磯部会長】**

ありがとうございます。

知名度を上げていかないかなというところもございますし、いろいろな努力が必要だと思えます。

よろしいでしょうか。

じゃあ、これは、報告という形で承りました。

次第4のその他に移りたいと思いますけれども、事務局から何かありましたらお願いいたします。

**【事務局】（松浦係長）**

それでは、次第「4. その他」につきまして、事務局より2点ご連絡をさせていただきます。

まず1点目は、こまき巡回バスの乗り換え案内サービスの実施についてでございます。

こちらの内容につきましては、先ほど資料5で触れさせていただいた内容でございますが、資料7をご覧いただきたいと思っております。

現在、公共交通機関を利用する場合、パソコンやスマートフォンなどを使ってあらかじめ時刻や経路、運賃を調べて移動する方が多くなってきている状況でございます。そのため、中部運輸局では、移動に必要な情報を可視化するための地域公共交通ネットワークの見える化を推奨している状況でございます。それを受けまして、本市におきまして、こまき巡回バスの経路、時刻、所要時間、乗り継ぎ回数などの情報をパソコンやスマートフォンなどを利用して検索可能とすることで利用者の利便性向上を図るとともに、若者、観光客、市外の方といった普段こまき巡回バスを利用していない方たちへの利用促進を図ることを目的として、インターネット上での乗りかえ案内サービスを昨年12月1日より開始いたしております。

具体的には、既に実施している「駅すばあと」に加え「駅探」「ジョルダン」「NAVITIME」の四つのサービスで対応しており、それにあわせ12月1日より市ホームページ上にもリンクを掲載し各サービスのホームページへ移動することが可能となるとともに、12月1日号の広報こまきでも周知したところでございます。こまき巡回バスと鉄道・民間路線バスとの相互乗り継ぎに関する情報も一括して検索可能なため、お出かけの際にぜひご利用いただきますようよろしくお願いいたします。

続きまして2点目は、次回の会議日程でございます。

次回の会議につきましては、2月22日水曜日の午前10時より小牧市役所東庁舎5階の大会議室、この会議室にて開催いたします。内容につきましては、今回ご審議いただきました地域公共交通網形成計画の基本方針案の策定等を予定しております。

なお、詳細につきましては後日改めてご通知させていただきますので、ご予定の程よろしく願います。

以上でございます。

**【磯部会長】**

ありがとうございました。

ただいま事務局からご説明ありましたように、今回は2月22日の午前10時からということでございます。年度でいいますと第5回目になりますが、今年はちょっと多くて大変ですけれども、よろしくお願いいたします。

要するに、今年何をやっているかという、先ほどの補助金の話もございまして、調査をやって、それに基づいて交通網形成計画を作るというところまでがやらなきゃいけないところであります。まだまだ完成できていないので、いよいよ最後の追い込みだということでございますので、皆様のご参加をよろしくお願いいたしますと思っております。

それでは、これをもちまして、平成28年度第4回小牧市地域公共交通会議を閉会させていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。